

【今年度の教育計画の評価と課題及び来年度の取り組みについて】

(学校関係者評価の結果を基にした、次年度に向けての改善方策)

世田谷区立八幡中学校

校長 阿 部 陽 一

1. 学校全般

(1) 学校生活全般

(数値目標) 「学校が楽しい」という生徒の割合を100%にする。

- 肯定的評価は昨年よりやや下がった。(生徒86 (90) %、保護者89 (91) %)。
- 21年度から、「質の高い学級、まとまりのある学年をつくり、一人一人の可能性を広げる」を重点目標に取り組み、水準を高めてきていますが、否定的な評価0%を目指します。

(2) 教職員の対応

- 生徒の各項目での肯定的評価が4年連続して、年々高くなってきている。生徒と教職員とのコミュニケーションづくりの成果が大きく反映してきていると考えます。また、保護者は全項目でここ3年間80%以上で概ね理解が得られていると考えます。
 - ・教育活動に熱心(生徒89 (89) %、保護者87 (89) %)
 - ・公平感(生徒62 (58) %)
- 生徒と教職員とのコミュニケーションづくりを意識してきた結果であると思いますが、さらに公平感が得られるように努めていきます。

2. 学習指導

(1) わかる授業

- 生徒の日常の授業の理解度と教職員の授業の工夫・改善への取り組みについての肯定的評価は、4年連続して上昇してきています。
 - ・授業内容がよく理解できる(生徒85 (82) %)
 - ・わかりやすく指導をしている(生徒86 (84) %)
- 基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を継続して重点とした結果であると考えます。

(2) 生徒の努力を認める評価

- 納得できる評価については、毎年評価規準と評価方法を公表していますが、生徒の肯定的評価は昨年度に比べ上昇しました。
 - ・評価は納得できる(生徒79 (72) %、保護者70 (74) %)
- 4月の保護者会で評価の観点や規準と評価方法を明示し、また、個人内評価も継続して実施しましたが、今後も丁寧な説明を心がけていきます。

(3) キャリア教育(進路指導)について

- 進路に関する情報や相談する機会については、進学に関する情報・相談とされていると考えられます。しかし、保護者の肯定的な割合は4年連続で増加してきており、キャリア教育が少しずつ理解されてきていると思います。
 - ・進路の情報提供(生徒67 (59) %、保護者71 (67) %) [分からない(保護者14 (20) %)]
- キャリア教育(進路指導)の方針
 - ・学校の行事やボランティア活動などを通して、集団の中の自分の役割や責任を自覚させる。
 - ・職場訪問・職場体験を通して、望ましい勤労観・職業観及び職業に関する知識をもたせる。
 - ・これらの活動と上級学校訪問を通して、将来設計や進路希望を考えさせる。

3. 満足感のある活動

(1) 行事の充実と生徒の取り組み(学芸発表会、運動会等)

- 生徒・保護者とも、「楽しみ」の項目で90%を上回りました。
 - ・学校行事が楽しみ(生徒90 (90) %、保護者94 (94) %、地域96 (93) %)

- ・活躍できる場面がある。(生徒84 (83) %、保護者90 (86) %)
- 行事への取り組みをさらに充実させていきます。
- (2) 部活動での取り組み(部活・ステップ活性化委員会との連携)
 - 生徒・保護者とも肯定的評価が上昇している。
 - ・入りたい部活動がある(生徒80 (82) %、保護者74 (71) %)
 - ・充実している(生徒79 (71) %)・活発にしようとする努力(保護者74 (70) %)
 - 今後も全校体制で実施し、活性化に努力していきます。
- (3) 地域活動(地区防災訓練、餅つき大会、バスハイク等)でのボランティア
 - 親子盆踊り大会の中止、14歳の成人式との重なりで生徒の参加数は減ったが、よく努力してくれました。

4. 特別支援学級としての取り組み

(重点目標) 地域の中で社会生活を営む将来をふまえ、地域の方々との交流をとおして、積極的に人とかわかることの大切さや、社会的マナーを意識できる子どもを育てる

- 成果としては、買い物や調理において、生徒一人一人に目が行き届き、丁寧な指導ができています。また、生徒一人一人に技術的な向上が見られ、自信をもって活動する生徒が増えてきています。今後とも重点的に取り組んでいきます。
- 生徒は、多くのボランティアの方々と交流することで積極的にコミュニケーションを図れました。また、保育園や大学、グループホームとの交流等を通して、社会的なマナーを学び、感謝の気持ちをもてるようになりました。

【平成25年度の取り組みについて】

【教育目標】(平成21年4月からの教育目標であり、さぎそう学舎の教育目標とも連動しています。)

八幡中学校の生徒として、一人一人が誇りと高い理想・豊かな創造力をもち、愛着のある地域、素晴らしい日本、かけがえのない地球の担い手として、自らの力を惜しみなく発揮するとともに、未来に羽ばたく人に成長することを願い、次の目標を定める。

自主＝自ら進んで学び、考え、行動できる生徒
 自律＝自らを律し、他を思いやる生徒
 自尊＝自らを尊い存在と思い、心と体を鍛える生徒

【目指す学校像】

『魅力ある学校』すなわち「生徒が来たくなる学校」「保護者が我が子を行かせたくなる学校」「教職員が明るく働きがいのある学校」「地域にとって親しみと理解と協力のある学校」を創造する

- ・ 確かな学力を育成する学校
- ・ 豊かな心を育む学校
- ・ 生徒が仲良くのびのび活動する明るい学校
- ・ 家庭・地域と共に育てる開かれた学校

重点目標1 「質の高い学級、まとまりのある学年をつくり、一人一人の可能性を広げる」

(数値による指標) 「学校が楽しい」という生徒の割合を100%にするようにする。

- ・ 学級の生活における組織づくりや諸課題の解決を通して、学校生活の向上を図る。
- ・ 相手の気持ちや立場に配慮でき、良好な人間関係の構築を図る。
- ・ 集団の一員としての自覚をもたせ、生活指導の基本方針の自律と責任を重点とする。
- ・ 行事の重点化及び内容の見直しによる充実感、成就感をもたせる取り組みを行う。

重点目標2 「地域の期待に応え、地域の中で活躍する子どもを育てる」

(数値による指標) 地域活動、ボランティア活動へ3回以上参加する生徒の割合が70%以上になるようにする。

- ・ 地域行事のボランティア活動に生徒がより自主的・積極的に参加するように促す。
- ・ 生徒会が中心になり、地域の方々の協力を得て、学校周辺の地域清掃を実施する。

重点目標3 「自ら進んで学力向上に励む子どもを育てる」

- (数値による指標) 一つ以上の検定(漢字検定・数学検定・英語検定など)を受検する生徒の割合が50%以上になるようにする。
- ・生徒一人一人がより自主的・積極的に学力向上に努めるように促す。

1. 「地域運営学校」と「世田谷9年教育」さぎそう学舎(八幡中、八幡小、九品仏小)での取り組み

(1) 学校運営に関する3校の連携と「地域運営学校」との関連

- 3校合同学校運営委員会の実施

(2) 接続プログラムの取り組み＝小学生が中学校生活を擬似的に体験する活動

- 各教科の訪問授業の方法や内容の研究
- 中学校の行事に小学生が参加する企画の実施
- 部活動の体験
- 小学校への訪問 → 生徒会主催の小学校朝会への参加、あいさつ運動など

(3) 学習状況を確認する仕組み＝学習習得確認調査の実施

- 学習確認調査(到達度テストによる調査)＝全学年対象
 - ◇ 教科＝国語、社会、数学、理科、英語(英語は2・3年のみ)
 - ◇ 時期＝春調査(4月 全学年)、秋調査(9月、11月 3年)
- 学習確認会議＝学習確認調査の結果分析と課題と対策の確認
- 小中合同学習確認会議＝学習確認調査の結果分析と課題と対策の確認
- ガイダンス＝夏季休業日期間中に学習確認調査の結果や課題への対策(三者面談で)

2. 教育内容の改善について

(1) 言葉と体験(コミュニケーションと生活リズム)の重視

- 国語で基礎的な力を定着させるとともに、各教科でレポートや記録の作成・論述・討論などの学習活動の充実を図り、言語活動の充実を図る。
- 伝統や文化に関する学習の充実を図る。
- 基本的生活習慣の定着・家庭での学習習慣の確立と食育を推進する。
 - ※ 家庭の協力 家庭生活での生活習慣＝「早寝・早起き・朝ごはん」
パソコン・携帯電話、学習時間の確保、帰宅時間、登校時の服装・持ち物

(2) わかる授業＝生徒の知的好奇心を湧かせる授業

- 授業を計画的に実施する。また、内容の重点化と指導方法や教材の工夫・改善を図る。
- 確かな学力の保障では、基礎的・基本的な知識・技能の習得とその活用を図る指導を行う。
- 学習習慣の確立を図る。そのため、家庭教育(＝宿題)を含めた学習内容を計画する。
- 教科「日本語」の実施

25年度	第1学年	「哲学」を週1時間実施
	第2学年	「表現」を週1時間実施
	第3学年	「日本文化」を週1時間実施

(3) 生徒の努力を認め、学習意欲を高める評価の実践

- 納得できる評価を目指し、評価の観点や規準と評価方法を明示する。

(4) 理解教育を推進するための交流教育について

運動会・学芸発表会や修学旅行などの学校行事で、特別支援学級の生徒は通常の学級とともに活動するとともに、学年毎に給食の交流を行います。

(5) 生徒指導の充実について

- 「道徳の授業」の充実を図り、心を耕す道徳教育を行う。
- 自他の生命を大切にすることの豊かな心をはぐくむ。
- 生徒会役員会や各種委員会等の指導を通して、生徒の自浄作用を促す。
- 情報の共有化・全校体制による指導と分らせる指導を共通に実践する。
- 規範意識の向上については、時間や服装などの分かりやすいルールを徹底する。
- 教育相談の充実を図る(スクールカウンセラーの活用と連携を図る)。

3. 教育計画について

(1) 平成25年度の授業時数について

学年	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	体育	家庭	英語	音楽	道徳	特別活動	総合
1	140 (4)	105 (3)	140 (4)	105 (3)	45 (1.3)	45 (1.3)	105 (3)	70 (2)	140 (4)	35 (1)	35 (1)	35 (1)	30 (0.9)
2	105 (3)	105 (3)	105 (3)	140 (4)	35 (1)	35 (1)	105 (3)	70 (2)	140 (4)	35 (1)	35 (1)	35 (1)	35 (1)
3	140 (4)	140 (4)	140 (4)	140 (4)	35 (1)	35 (1)	105 (3)	35 (1)	140 (4)	35 (1)	35 (1)	35 (1)	35 (1)

(2) 年間実授業時数の確保に向けて＝1015時間の確保

- 土曜授業（振替をしない）の実施（地域に公開が原則）
 - ◇ 毎月第2土曜日、年間11回
- 開校記念日（9月20日）、都民の日（10月1日）に授業を実施
- 2学期始業式＝9月1日